

vol.72

2011年6月号

国際障害者年記念 ナイスハート基金

〒105-0022 東京都港区海岸 1-4-26 ゆうらいふセンター

電話：03-3434-2170 FAX:03-5401-0681

URL：http://www.niceheart.or.jp/



なごはあと



東日本大震災の被災地福島訪問 「NPO法人がんばろう会・だんでらいおん」で落語をする三遊亭好太郎さん

寄稿 東日本大震災の被災地「福島」を訪ねて	2
ふれあいのスポーツ広場	4
シンポジウム「音と感性で伝えあうワークショップ」実施報告	6
ウインターキャンプ実施報告、Nice Heart Topics.....	8



東日本大震災・被災地訪問 「ナイスハート・ふれあいの広場 in 福島」

財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金
常務理事 澗口良一

この度の甚大な被害をもたらした「東日本大震災」においては、今も多くの行方不明者の懸命な捜索が行われ、また、福島県におかれましては、放射能漏れによる深刻な影響の中、やむなく地域住民こそって避難しなければならない不合理と無念さの中、近隣地域の住民の方々が必死に支えあっておられる報道を目の当りにして、言葉に表せない思いで私どもの非力さを日々感じております。

被災地におかれましては、一日でも早く、復旧、復興をできますこと心よりお祈り申し上げます。

日頃より福祉事業を柱にしております当基金として、何かお役に立てることはないかと、熟慮してありましたところ、日頃より事業にご協力いただいております、タレントの方々からも、先ず現地に足を運ぼう！！と、心強いご賛同をいただきました。

被災地において一刻も早い元の日常生活を取り戻すためには、少しでも元気を取り戻していただ

中心に現地へ足を運ばせていただくこうと企画させていただきました。

具体的な計画段階では、自前を前提にしながらも、現地の受け入れご承諾が必須となるだけに、被災地対応等で多忙極まりない中とは思いつつご相談申し上げ、ご快諾いただいた、福島県教育委員会をはじめ、大玉村教育委員会、日産労連福島地協、日産労連ファルテック労働組合、及び地域の福祉施設の方々のご尽力をいただきながら、二日間で5つの学校や施設等を訪問し、具体的な日程調整（日程表参照）をさせていただきました。

一部の学校では避難所にもなっておりましたので、音響の大きさにも配慮し、ご迷惑をおかけしないようにと、普段とは異なる緊張感をもって臨みましたが、参加されている生徒さんたちや近隣の住民の方々は、庄崎隆志さんの、身体表現と視覚だけで意思伝達ができ、コミュニケーションをとることのできるワークショップや、ストレート松浦さんの、宙に舞うボール、見事な回転を見せるこん棒、自力で踊る傘、落ちない皿等、三遊亭好太郎さんの子どもたちにもわかる落語、演者さんたちの不思議な力で、どんどんと皆さんの変化する目の動き、耳の傾き、驚く顔、そして笑顔と笑い声に、ホッとしつつも、ふと気がつくと、私共が励まされ、お互いに支えあう人への優しい気持ちと、心の豊かさを体感し、学ばせていただき、非常に居心地の良い時間を過ごすことができました。

東京より同行していただいた芸能タレントの方々は、今回とは別に個々に被災地にも入られ非常に多忙の中でも、当基金のスケジュールに合わしていただき1日に2回、3回と、汗だくになって持ち前の役者魂を披露していただきました。

幼い子供さんに助けられたり、とくに福島県立



ストレート松浦さん 県立聾学校にて

き、そのためには少しでも笑顔を私共がご提供できればと、地域の特別支援学校や障害者施設等を



庄崎隆志さん 県立相馬養護学校にて

聾学校では、俳優でもある庄崎隆志さんの人気が高く、いつまでもサインや握手を求められ、ご本人も名残惜しさのなか次の移動となったことが印象的でした。

同じく当基金と関わりのある、株式会社レクス様からは、養護学校の生徒さんへ沢山のサッカーボールを寄贈していただきました。

各施設終了後には、手作り陶器や、花束、生徒さんによるお礼の言葉もいただき、最後の平田村では、施設の自家製おこわにパンまでいただき、わがチーム全員で、近くの平田村芝桜公園で、ホッ

と一息しながら、みんなでおこわを美味しくいただき帰路につきました。

日本全体の食を支え、経済全体の底支えに位置する東北地方の方々の秘めたる力強さをあらためて実感できました。

被災地の皆さま方におかれましては、まだまだ落ち着いた困難な日々ではありますが、私共に対していただきました、あの笑顔と温かい人への思いやりの心は、必ずや元気な福島を復活していただけると確信いたしました。引き続き、微力ではありますが、私共ででき得る支援を進めたいと思います。ありがとうございました。



三遊亭好太郎さん 県立聾学校にて

日時	スケジュール	備考
5月13日		
8:30	福島県立相馬養護学校 相馬市中村字本町132番地の1	
	☆主催者あいさつ：澗口常務理事	出演：庄崎隆志、ストレート松浦
	★ジャグリング：ストレート松浦	会場：2階オープン教室
	★ワークショップ：庄崎隆志	参加者：75名
		(県立富岡養護学校の児童・生徒を含む)
13:30	福島県立聾学校 郡山市大槻町字西ノ宮西32番地	
	☆主催者あいさつ：澗口常務理事	
	★ジャグリング：ストレート松浦	出演：三遊亭好太郎、庄崎隆志、ストレート松浦
	★ワークショップ：庄崎隆志	参加者：180名
	★落語：三遊亭好太郎	(県立あぶくま養護学校安積分校の児童・生徒を含む)
16:00	大玉村立大玉中学校 福島県安達郡大玉村玉井字的場93番地	
	☆主催者あいさつ：澗口常務理事	出演：三遊亭好太郎、庄崎隆志、ストレート松浦
	★ジャグリング：ストレート松浦	参加者：330名
	★ワークショップ：庄崎隆志	(大玉村への避難者を含む)
	★落語：三遊亭好太郎	
5月14日		
9:00	福島県立郡山養護学校 福島県郡山市富田町上の台1	
	★ジャグリング：ストレート松浦	出演：三遊亭好太郎、ストレート松浦
	★落語：三遊亭好太郎	参加者：12名(避難所)
10:50	NPO法人がんばろう会・だんでらいおん 福島県平田村大字蓬田新田字大柏木219番地	
	★ジャグリング：ストレート松浦	出演：三遊亭好太郎、ストレート松浦
	★落語：三遊亭好太郎	参加者：55名



ナイスハートふれあいのスポーツ広場 広島会場と岐阜会場を通じて

同志社大学 スポーツ健康科学研究科
浅岡 知希

現在、私は同志社大学スポーツ健康科学研究科に所属しています。ふれあいのスポーツ広場の中で行われる「ユニバーサルスポーツ競技」を考案された藤田紀昭先生のもとで障害者スポーツを専攻しています。今回は、ふれあいのスポーツ広場に参加させていただき、そこから私が感じたこと、学んだこととお話させていただきたいと思います。

障害者スポーツの基本理念の中に「アダプテッドフィジカルアクティビティ」という考え方があります。これは、「自らの身体をスポーツに合わせるのではなく、スポーツをそれぞれの身体状況や発達状況に合わせる」というものです。具体的には、ルールの変更や用具の使用によって障害のある方や高齢者の方でもスポーツを楽しむことができるというものです。ふれあいのスポーツ広場で行われているユニバーサルスポーツ競技にもこの理念がいかされており、競技の中では一人ひとりがそれぞれの方法で参加されています。「スポーツを身体状況や発達状況に合わせる」ことによって選手



の皆さんも実行委員の皆さんも共に楽しい時間を過ごすことができているのではないかと感じます。競技に対して、その人らしく、その人の方法で参加している姿やそこから生まれてくる笑顔は、私の目にとっても輝いて映ります。

私は、ふれあいのスポーツ広場の中でユニバーサル体操やじゃんけんダンスの指導を担当させていただいています。ユニバーサル体操とじゃんけんダンスの時間には大切にしているルールがあります。それは、全員参加ということです。選手の皆さんだけでなく、実行委員の皆さんはもちろん、会場にいる全員と一緒に楽しむということです。その日初めてお会いした人たちを目の前にして、じゃんけんダンスの始まりはいつも皆さん緊張気味な顔をされています。しかし、ダンスの中で相手と手を合わせ、一緒にリズムに乗っているうちに表情は少しずつ笑顔に変わっていきます。そして、最後のダンスが終わると自然に拍手が起こります。そこには会場全体を包み込むような温かな空気があります。それは、ふれあいのスポー



ユニバーサル体操の様子

ツ広場の目標である「スポーツを通じ、『出会い』、『ふれあい』の場を提供し、理解を深め、障害に対する『ノーマライゼーション』『共生社会』実現の一助となる」ことが達成された瞬間と言えるのではないのでしょうか。この温かな空気は、ふれあいのスポーツ広場が持っている素敵な特徴の一つであると感じます。

じゃんけんダンスの後、会場の皆さんで歌を合唱し、ふれあいのスポーツ広場は閉会を迎えます。そして実行委員の方々は選手の皆さんのお見送りをします。

これはある会場での出来事ですが、閉会宣言が終わり私も実行委員の方々と一緒に選手の皆さんを見送っていました。すると車椅子の女性が私のもとに来て「今日、初めてふれあいのスポーツ広場に参加しました。とても楽しかったです。来年も是非参加したいと思います。ありがとうございました。」と言葉を掛けてくれました。私からも「こちらこそありがとうございました。来年も是非来

てくださいね。」と声を掛けました。あまりの嬉しさに上手く言葉が出ませんでした。きっとその女性は、来年のふれあいのスポーツ広場を心待ちにしているのだと思います。

ふれあいのスポーツ広場を通じて、改めてスポーツが持つ素晴らしさを感じます。スポーツは、ルールの変更や用具の使用などによって参加を可能にするという点で可塑性に富んでいます。また同じ時間を共有し、一緒に汗を流すことにより相互理解を促します。そして、人と人を繋ぎ、人々を笑顔にすることができます。ふれあいのスポーツ広場を通じたこれらの気付きは、私の今後の活動の原点になっていくものだと感じています。

これからも「ナイスハートふれあいのスポーツ広場」によって、多くの人々が繋がり合い、障害のある方への理解と関心を深め、共生社会の実現に向けて進んでいくことを願っています。私もふれあいのスポーツ広場を通じて、そのような社会の実現に向けて少しでもお手伝いできれば幸いです。



<左上、右下>

じゃんけんダンスの様々。音楽に合わせて簡単なダンスをします。間奏の間にじゃんけんをして勝った人は負けた人から洗濯バサミを1つもらいます。相手を変えてまたダンスとじゃんけんを繰り返します。



<右上>

ユニフォームにたくさんの洗濯バサミが。皆さんに紹介されました。

<左下>

同志社大学スポーツ健康科学研究科の学生さん

～障害のあるなしに関わらず、生きやすい社会づくり～

シンポジウム「音と感性で伝えあうワークショップ」報告



私たちは日頃より、障害のあるなしに関わらず、誰もが心地よく生きやすい社会に近づくことを願い、いろいろと模索し様々な事業を展開しています。

子どもたちが音と身体表現を中心にコミュニケーションを図るプログラム「ユニバーサル音楽ワークショップ」もこのような想いの中から生み出されました。相互理解を図ることで子どもたちの心の中にある壁を和らげることができるなら、その手段であるコミュニケーション力を楽しい空間の中で伸ばし、育てる活動につながりました。

そこで1月29日（土）ゆうらいふセンター大会議室（東京都港区）にて、今までの取組みをご報告し、他の先進的な取組を紹介しながら経験交流を図るためのシンポジウムを開催いたしました。約70名の方にご参加いただき、会場では登壇者同士で白熱した議論が行われました。

- <パネリスト> 星山麻木さん（明星大学教育学部教授・ユニバーサルワークショップ研究会主宰）
 庄崎隆志さん（Office 風の器主宰・俳優・演出家）
 寺田恭子さん（名古屋短期大学教授・ダンスサークル・トライアングル代表）
 黒岩 淳さん（北九州市障害福祉ボランティア協会事務局長）
- <コーディネーター> 米田佐知子さん（神奈川子ども未来ファンド事務局長）

からだで伝える



まずはじめにアイスブレイクも兼ねて、庄崎隆志さんのノンバーバルコミュニケーションワークショップを行いました。音のない世界でも、顔の表情と身体表現だけで視覚的にコミュニケーションする体験をしました。思いのまま自由に表現することの楽しさを改めて感じさせられました。

基調講演



気持ちがあはれたところで、星山麻木さんによる基調講演「ユニバーサル音楽ワークショップ」をお話しいたしました。

もともと養護学校の音楽教師だった星山さん。この時の障害のある子どもたちとの出会いが、今日までの障害児教育の研究につながり、音楽療法を通して、音楽「を」教えることが

ら、音楽「で」教えることにシフトしていった経緯をお話しいただきました。音楽で子どもたちに生きる楽しさを伝えたいと思うようになったことで、音楽の授業を楽しんでいなかった子どもたちが音楽を楽しむようになり、その後、動きと自己表現、創造性も取り入れるようになり、現在のユニバーサル音楽ワークショップに発展していったとのこと。

音や身体表現を通じてみんなが楽しむこのワークショップの目的は、1. 自分と違う人に対す



る不安や差別等、人と人との理解や交流を妨げる壁を取り除ききっかけづくり、2. 本来みんな違う感じ方、良さを持っているからこそ、ありのままを理解し、違うからこそ心がつながることが大切であることを伝えていく、ことだと説明されました。

子どもたちが自ら考え表現する力は、評価のない活動から生まれる、学校の授業でもユニバーサルデザインの可能性はあるとお話をされました。「ある学校の算数の授業で、前半、先生は質問を投げかけ、解き方は教えずに自分で解くように指示し、その後、答えはひとつでも子どもたちが出したいろいろな解き方を紹介してみんなそれぞれ頑張ったという授業をしていました。共有や連携をすることは外に開いていく力、他者も認める力を養うのに必要なことで、これが教育の基本的な軸になっていくべきです」と言及されました。

事例報告（1）



障害のある子どもたちと大学生等で構成するダンスサークル「トライアングル」で一つの作品を作り上げていく過程を代表の寺田恭子さんからお話いただきました。ダンス経験がない大学生たちが、障害のある子どもたちそれぞれが楽しむことや興味があることを見つけ、それを生かしたダンスを創作していく。そしてその過程を大学生たちも楽しみ、みんなが同じ空間で同じ視線で楽

しんでいるというご報告をいただきました。

事例報告（2）



をする活動を黒岩淳さんから紹介していただきました。誰かのためではなく、みんなが共に使える物をどのように作っていくのか、子どもたちにもわかりやすい物を通じて学びの機会を提供しているということでした。

パネルディスカッション

最後に、「子どもたちが生きやすい社会をめざして」をテーマに、出演者全員が登壇し、コーディネーターとして米田佐知子さんに勤めていただきました。

「ワークショップは、自己主張し合える面白さがあるが、どんな工夫をしていますか」という質問に対し、星山麻木さんは「誰もが違ってここはいいというメッセージを居心地の良い雰囲気の中で強く出します。そこが上手くいけばお互いに主張し、譲る所は譲って折り合いをつけるようになります。そして次のステップとして個をお互いに認め合う事ができる初めてやってくるステージになるのです。」と語りました。

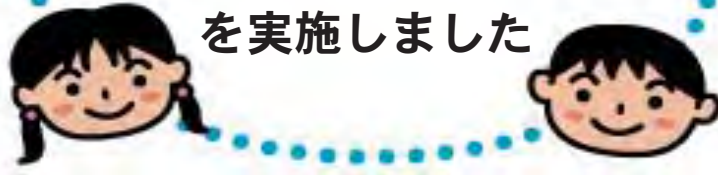
また、「今の学校では評価に縛られているが、その評価を

変えるにはどうしたらよいか」という質問に対し、庄崎隆志さんは「障害のあるアーティストが学校に出向くことで、先生の価値観を変え、それが学校のあり方も変えていく良いチャンスです」、寺田恭子さんは「いかに多様な人たち、多様な価値観があるからいろいろなことがあってもいいんだと、まずは先生方に受け止めてほしいです」とそれぞれが語りました。また黒岩淳さんは、ものづくりの活動の中で「評価されることを意識して話しあい始めるとつまらないものになる。自己主張し合い葛藤し、そしてどこかで折り合いをつけることを演出していきたい」とお話しされました。



学校や地域は今までの固定観念や枠組みにとらわれず、子どもたちに成功体験をさせ、安心して自己表現できる環境を整えることが求められていることがわかりました。そして子どもも大人も、多様な人間や多様な考えを受け止め、認める力をつけることが必要で、私たちの行っているユニバーサル音楽ワークショップの意義と必要性を再確認したシンポジウムでした。

発達しょうがい児と家族の ためのウインターキャンプ を実施しました



しょうがいのある子どもたちとその家族が、より豊かで楽しい時間を過ごし、居心地のよい場所の提供をめざしたキャンプを、雪が降りしきる冬の御殿場で実施しました。

家族だけでは抱えきれない多くの課題と、家族それぞれが自己の立場で生きていくことの意味を考える、ひとつのきっかけになればと考えました。

家族みんなで共有する時間を設けつつ、しょうがいのある子ども、きょうだい児、親の3グループに分かれ、それぞれのニーズに応じたプログラムを用意しました。子どもたちは真っ白のTシャツに模様や絵を描いて自分だけのTシャツづくりや宝探しゲーム等に夢中になり、大人は子どもから離れて勉強会や参加者同士の交流を図りました。最後には、家族みんなでアルバムをつくり、キャンプの思い出を形にして残しました。

またボランティアで参加いただいた学生の皆さんと日産労連組合員の方々、ご協力有難うございました。

日程：2011年2月11日（祝）～12日（土）

場所：ゆうらいふ御殿場（静岡県御殿場市）

主催：日産労連

日産労連 NPO センター「ゆうらいふ21」

明星大学(大学カフェプロジェクトチーム)

ナイスハート基金

参加者数：25家族72名

実行委員数：76名



自分で作ったTシャツを着ながら、笑顔あふれる子どもたち

ありがとうございました

平成23年4月から6月の間に、当基金への賛助会員加入や寄付金を頂戴いたしました。いただきました資金は、それぞれの活動のために有効に使わせていただきます。ありがとうございました。

【寄付金】

山口八重子様、高良明枚様、
IH Story 南長崎入居者一同様

【個人賛助会費】

戸井田和彦様



ナイスハートな支援をお願いします



当基金が事業を行うための運営資金として、寄付金と賛助会員の会費が重要です。より多くの方々が趣旨をご理解いただき、ご厚志を賜りますようお願い申し上げます

■賛助会員

個人賛助会員1口1万円 / 法人賛助会員1口10万円